

2020年度の活動報告

総務

(1) 会員数

- ・ 2020年度は入会者4名、年度末の退会者が1名であった。年度末会員数は前年度より3名増えて66名となった。うち女性会員が14名、35歳未満の若手会員が6名であった。
- ・ 入会者 4名
井上 侑一郎氏 (5月11日付) 砂川 眞氏 (8月19日付)
落合 直之氏 (8月29日付) 森田 宏子氏 (1月4日付)
- ・ 退会者 1名
山田 雄仁氏 (3月31日付)

(2) 年会費収入

- ・ 会費納入者67名のうち、2名は2020年度の年会費を2019年度に前納した。
- ・ 2019年度の若手会員のうち、1名は2020年度に一般会員となった。
- ・ 前納金を除く2020年度の年会費収入は501,000円と、会員数の増加などにより2019年度に比べて7,000円の増収であった。

(3) 会員紹介

- ・ SRID ジャーナルの「会員紹介」欄において、第19号に大野政義会員、阿部直美会員、第20号に玉置佳一会員、砂川眞会員が紹介された。
- ・ 山岡和純会員がジャーナル第20号に「自撮りヒューマンドキュメンタリ」を掲載した。
- ・ SRID Newsletterの「新会員紹介」では、4月号に玉置佳一会員、10月号に落合直之会員が投稿した。

全体行事

第47回年次総会（メールで開催）

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年4月7日に緊急事態宣言が発令されたことを受けて、4月14日の幹事会で5月9日に予定されていた第47回年次総会の開催中止を決めた。集会方式での総会に代えて、メールで総会議案を配布、審議のうえ、メール投票で議案の承認を得ることとした。
- ・ 4月22日に議案書を配布し、メールによる審議(5月1日～7日)、承認投票(5月8日～10日)を実施したところ、議案に対する異議やコメントはなく、キャリア開発事業の改編を含む全ての議案が5月11日に全会一致で可決された。投票率は66.7%(63名中42名が投票)であった。

幹事会 (オンラインで開催)

第1回幹事会

2020年6月9日(火) 18:00~19:40(7名参加)。小久保キャリア開発事業運営委員長が新規研修コース、HP改訂計画等について説明。不破幹事が他団体との連携について「たたき台」を提出した。

第2回幹事会

7月14日(火) 18:00~19:30(6名参加)。キャリア開発事業の改正に伴う短期研修コースの新設、講師リストの見直し等について合意した。アフリカ協会との連携について協議した。

第3回幹事会

8月11日(火) 19:00~20:30(8名参加)。HPの改訂、他団体との連携について協議した。

第4回幹事会

9月8日(火) 19:00~20:30(6名参加)。懇談会の参加受付方法、第3回フォーラムの開催要領について協議した。

第5回幹事会

10月13日(火) 19:00~20:00(6名参加)。第3回フォーラムの参加者と役割分担を協議した。

第6回幹事会

11月10日(火) 19:00~20:30(8名参加)。SRID入会申請書のフォーム改訂、記載事項等について協議した。第3回フォーラムの開催要領と役割分担を確認した。

第7回幹事会

12月8日(火) 19:00~20:00(7名参加)。2月末を締切日として2021年度役員を公募する。Zoom会議が続き、懇親の機会が減ったため、来年度はEntertainment担当幹事を新設し、オンラインの写真展などを企画する。

第8回幹事会

2021年1月12日(火) 19:00~20:30(8名参加)。コンゴ民主共和国の支援団体RITA-Congoと第1回オンライン連携セミナーを開催する。

第9回幹事会

2月9日(火) 19:00~20:00(7名参加)。コロナ対策のため2020年度の会議・イベントが全てオンライン開催となり、会場費・飲食費の削減により26万円の収支黒字となった。2021年度は特例措置として、会則を改訂せずに年会費の半額(4000円、若手会員は2500円)を徴収する。

第10回幹事会

3月9日(火) 19:00~20:00(8名参加)。ジャーナル編集委員会運営規約、短期研修コースへの参加資格、SRIDホームページのセキュリティ対策の見直し等について議論した。

第 11 回幹事会

4月13日(火) 19:00～20:00 (8名参加)。キャリア開発事業の講師会合、新規研修コースの実施、総会議案書について議論した。

懇談会 (オンラインで開催)

- ・ コロナ禍の為、当初対面式で予定していた懇談会を延期し、8月よりZoomを使用したオンラインで開催した。オンラインによるアクセスの利便性もあり、参加申込者は対面式の30人前後からオンラインでの100人程度と大幅に増加した。さらに、登壇者についても世界のどこにいても参加可能となり、今年度開催の5回の懇談会の内、2回が海外在住の登壇者であった。
- ・ 懇談会参加申込をグーグルフォーム使用とすることで幹事の負担が軽減された。さらに、グーグルフォーム書式内にSRIDジャーナル配信希望とキャリア開発塾カウンセリング受講希望に関する質問を入れたことで、それぞれの増加に繋がった。
- ・ これまで懇談会後に開いていた講師を囲むネットワーク懇親会は、オンライン開催のため残念ながら中止した。懇談会記録をそれぞれ直近のニューズレターに掲載した。(小林[✕])

第 1 回懇談会

8月18日(火) 19:00～21:00 参加登録者 100名。講師は武内進一・東京外語大現代アフリカ地域研究センター長。テーマは「アフリカの土地法改革が示すもの:背景・結果・国家建設への含意」。概要をSRID Newsletter 8月号に掲載した。

第 2 回懇談会

9月15日(火) 19:00～21:00 参加登録者 100名。講師は丹羽敏之・元 UNFPA 事務局次長。テーマは「国連改革の行方:一つの国連(Delivery as one)は可能か?」。概要をSRID Newsletter 9月号に掲載した。

第 3 回懇談会

10月20日(火) 19:00～21:00 参加登録者 97名。講師は焼家直絵・国連世界食糧計画日本事務所代表。テーマは「コロナ禍の食料不安と国連 WFP の支援:世界の飢餓への挑戦」。概要をSRID Newsletter 10月号に掲載した。

第 4 回懇談会

1月19日(火)19:00～21:00 参加登録者 100名。講師は柳本恵伸(ヨシノブ)・IFC シニアクレジットオフィサー(ヨハネスブルグ駐在)。テーマは「MDBs 最前線からの報告—アフリカでのコロナ禍対応」。概要をSRID Newsletter 2月号に掲載した。

第 5 回懇談会

3月16日(火) 19:00～21:00 参加登録者 100名。講師は田口昌子・元 ILO 駐日代表。テーマは「ILO100年の活動とコロナ禍への取り組み」。概要をNewsletter 3月号に掲載。

SRID フォーラム (オンラインで開催)

- 第3回 SRID フォーラムは2020年11月14日(土)にコロナの影響を避け、Zoom形式により開催された。米国(ワシントン)、エジプト(カイロ)、ケニア(ナイロビ)からの参加者を含め、26名の参加を得た。全体で3時間(14時~17時:日本時間)のフォーラムとなり、必ずしも十分な討議を行うことができなかったが、様々な会員の所属、専門分野を反映した有益な報告を得ることができた。また、今年も ABE 留学生 OB の会員の参加を得て、英語セッションを継続することができた。
- 今回は「コロナ後の世界を探る」をテーマに、パネル I「コロナ後の世界の構造的変化の行方」、パネル II(英語セッション)「コロナ後のアフリカの変化」、パネル III「コロナ後の国際協力の行方」の3つのパネルを設定し、報告と討論が行われた。学生部会員から本会員になった2名の会員の報告もあり、全体討論の中で SRID の世代交代を評価するとのコメントが得られた。改めて会員相互の理解を深める良い機会となった。概要を SRID Newsletter 11月号に掲載した。(神田)

ニューズレター

2020年4月号 No. 501

- 不破吉太郎 自論公論 「悠久の変動と日々の営為」
玉置佳一 新会員紹介 「私の経歴と近頃の雑感」
豊間根則道 アジズ・アベバの風にのせて「開発現場で読む『枕草子』—平安時代の昼と夜」

2020年6月号 No. 502

- 松田教男 自論公論 「コロナ後の技術協力の新展開」
山下道子 第47回年次総会報告 「メールによる審議・承認」
不破吉太郎 コロナ通信 No.1 「コロナ自粛と私のテニス」
小久保和代 コロナ通信 No.2 「私のコロナ体験」
小林文彦 コロナ通信 No.3 「With コロナの日常の為に」
神田道男 コロナ通信 No.4 「コロナ:非日常の世界」

2020年8月号 No. 503

- 鈴木博明 自論公論 「アメリカ・コロナ事情」
小林文彦 第1回懇談会報告 武内進一・東京外語大現代アフリカ地域研究センター長
「アフリカの土地法改革が示すもの:背景・結果・国家建設への含意」
今井正幸 論考 「トランプ外交と日本のマスコミ」
中島千秋 コロナ通信 No.5 「コロナと私の日常」

2020年9月号 No. 504

- 山下道子 自論公論「国連改革に思う」
小林文彦 第2回懇談会報告 丹羽敏之・元 UNICEF 事務局次長「国連改革の行方：
一つの国連（Delivery as One）は可能か」
藤村建夫 旅の千夜一夜物語・第21夜「ビルマ脱出秘話：その名はF機関」

2020年10月号 No. 505

- 小林文彦 第3回懇談会報告 焼家直絵・国連世界食糧計画(WFP)駐日代表「コロナ
禍の食料不安と国連 WFP の支援：世界 の飢餓への挑戦」
落合直之 新会員紹介
D. Kindole & E. Kiprop Coronavirus Report No.6 “Nest-bound Days during the first wave of
COVID-19 Pandemic in Japan”

2020年11月号 No. 506

- 神田道男 第3回 SRID フォーラム開催報告「コロナ後の世界を探る」

2020年12月号 No. 507

- 松田教男 自論公論「今後の途上国支援の在り方」
山下道子 会員紀行「世界遺産『富岡製糸場』を訪れて」

2021年2月号 No. 508

- E. Kiprop & D. Kindole “Impacts of adopting ICT and AI in developing countries”
小林文彦 第4回懇談会報告 柳本恵伸・IFC Senior Investment Officer「MDBs 最前線
からの報告—アフリカでのコロナ禍対応」
山下道子 第1回 SRID サロン「中沢賢治写真展」報告
藤村建夫 「パソコン詐欺にご注意を！」

2021年3月号 No. 509

- 神田道男 自論公論「気候変動対策の戦略を探る」
小林文彦 第5回懇談会報告 田口昌子・元 ILO 駐日代表「ILO100年の活動とコロナ禍へ
の取り組み」
不破吉太郎 RITA-Congo との連携セミナー報告 華井和代・RITA-Congo 共同代表「コンゴ
民主共和国東部における人権侵害と鉱物資源」

SRID ジャーナル (オンラインで編集委員会を開催)

(1) 編集委員会の開催

2020年度の企画・編集は2019年度同様、藤村建夫編集委員長以下、浅沼信爾、高橋一生、仲浩史、福田幸正、湊直信、山岡和純の7名が担当し、中島千秋が編集協力を務めた。編集会議を5月11日、7月14日、10月6日、12月10日の4回開催した。

(2) 第 19 号及び第 20 号(10 周年記念号)の発行

- ・ 第 19 号は「コロナ危機(COVID-19)に考える」を特集テーマとして7月に発行。巻頭言は高橋一生「複合危機化するコロナ・パンデミックと新たなグローバル文明の黎明」。
- ・ 第 20 号は創刊 10 周年記念号として 1 月に発行。特集は「ポストコロナ危機の世界—2030 年を展望する」。巻頭言は藤村建夫「SRID ジャーナルの 10 年を振り返る」。

(3) ジャーナル編集委員会運営規約の制定

ジャーナル創刊から 10 年が経過し、編集委員の交代などが予想されることから、2 月 12 日の編集委員会で編集委員会運営規約案を作成した。3 月 9 日の第 10 回幹事会に規約案が提出され、幹事会での議論を踏まえて修正の上、承認された。運営規約の内容は巻末の別紙1「ジャーナル編集委員会運営規約」を参照のこと。(藤村)

(4) 外部配信者数の増加

ジャーナル登録者数は 553 名。当初の目標の 500 を超えたため、従来のフライヤーやメールを使った積極的な広報から、ジャーナルトップページの登録希望欄からの受付に絞ることとする。(中島)

キャリア開発事業 (オンラインで運営委員会を開催)

(1) 運営委員会

小久保和代委員長以下、藤村建夫、神田道男、小林文彦、佐藤桂子、和気邦夫の 6 名が運営方針を決定し、事業の計画、実施、宣伝などを担当。運営委員会を 6 月 20 日、7 月 7 日、8 月 17 日、10 月 21 日、12 月 23 日、2 月 19 日、3 月 23 日の 7 回開催した。

(2) 事業の実施

- ・ 実績総括表を作成し、規約に基づいて 4 半期ごとに幹事会に報告した(表 A 参照)。
- ・ 2019 年度の規約改正を受けて、2020 年度にホームページを改訂した。
- ・ 本人の希望に沿い講師リストを更新した。講師に状況を随時知らせる情報共有を深めることとした。
- ・ 国際機関の就職、あるいは働き方等に関する情報は男性の視点に立つものが多く、女性に必要な知識を扱ったものは少ないことから、開発分野で働く女性のためのオンライン塾(研修)を構想中である。(小久保)

(3) 短期研修コースの新設

- ・ 国際機関等において活躍できるプロフェッショナルを育成することを目的として、2 日間の短期能力向上研修コースを新設し、教材を作成したが、コロナ感染症が蔓延したため、実施は 2021 年度に延期された。
- ・ 実施は国際開発ジャーナル社との共催で 2021 年 6 月 19 日(土)、20 日(日)の 2 日間で行う。土日ともに午前と午後に分けて 90 分の講義・実習を 4 コマずつ、計 8 コマ実施する。
- ・ 担当講師が教材を作成し、土曜に世銀コース、日曜に国連機関コースを実施する。将

来的には、SRID 会員の専門知識とスキルを考慮して、徐々に研修コースを改訂または拡充していきたい。(藤村)

表 A. 2020 年度キャリア開発事業実施状況

活動内容	活動状況		支援対象
	件数	参加者数	
1. 出張講座	0	0	--
2. 能力開発・向上研修	3	52	サセックス大学同窓会、法政大学法学部
3. カウンセリング	20	20	学生 11 名、社会人 9 名
4. 国際機関職員支援	1	1	JICA 職員
5. 学生団体活動支援	0	0	--
6. 他の組織との連携	0	0	--

他団体との連携推進(オンラインで開催)

- ・ 2月26日(金)に第1回連携セミナーをオンラインで開催した。講師は RITA-Congo 共同代表の華井和代氏。テーマは「コンゴ民主共和国東部における人権侵害問題と国連、周辺諸国の関係、紛争鉱物およびグローバル経済との関係性、今後の改善策」。参加者は 23 名(うち RITA-Congo 関係者 5 名)。
- ・ 華井氏のプレゼンの後、RITA-Congo 側参加者と SRID 会員との意見交換を行った。セミナーの概要を SRID Newsletter 3 月号に掲載した。また、質疑応答を含む詳細な報告が RITA-Congo のホームページに掲載された。(不破)

サロン(オンラインで開催)

- ・ 「サロン・エカポール」はコロナ感染症のため実施できなかったが、新たにオンラインの SRID サロンを開始することになり、2月6日(土)に第1回 SRID サロン「中沢賢治写真展」をオンラインで開催した。参加者は後日録画を視聴した 4 名を含む 16 名。
- ・ 終了後、参加者による展示写真の人気投票を行い、撮影者による解説とともに、上位 5 点の作品を Newsletter 2 月号に掲載した。2021 年度はサロン担当幹事をおく。